

第5章 バリアフリー化の基本目標と基本方針

1. 基本目標

次の各務原市総合計画及び各務原市都市計画マスタープラン、各務原市地域福祉計画等をふまえ、本基本構想の基本目標を設定します。

◇ 各務原市総合計画

『笑顔あふれる元気なまち ～しあわせ実感 かかみがはら～』

○便利で快適に暮らせるまち（誰もが住みやすいユニバーサルデザインのまちづくり）

◇ 各務原市都市計画マスタープラン 2010

○まちの顔の整備充実（西の都市拠点における、那加・新那加駅周辺の既存機能の充実）

○安心して暮らしやすいまち（バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮したまちづくり）

◇ 各務原市地域福祉計画かかみがはらハートフルプラン

『助け合い 支え合い みんなでつくる福祉のまち かかみがはら』

○地域の福祉活動の場づくり（バリアフリーやユニバーサルデザインの視点）

○心のバリアフリーの推進



< 各務原市 新那加駅周辺地区バリアフリー基本構想の基本目標 >

便利で快適に暮らせるユニバーサルデザインのまちづくり

各務原市では、平成 27 年度からスタートする総合計画において、将来像である「**笑顔あふれる元気なまち ～しあわせ実感 かかみがはら～**」の実現に向けて、高齢者や障がい者をはじめ、妊産婦やけが人、乳幼児連れや大きな荷物を持った人など、誰もが便利で快適に暮らせるまちとなるよう、障壁を取り除くバリアフリー化に取り組みます。

そしてこれらの取り組みを通じて、特定の人々を対象とした特別な対応を行うという発想を一歩進めることにより、一度に実行することはできないまでも、すべての人が利用しやすいことを初めから目指すユニバーサルデザインの考え方による取り組みへと発展させていくことが必要です。

新那加駅周辺地区においては、各務原市の西の都市拠点として交通結節点機能の向上に向けた整備を行うとともに、高齢者等の最寄となる商店街等の市民の暮らしを支える拠点的商业地と連携した歩行者ネットワークの形成を図り、助け合いや支え合いによる協働のユニバーサルデザインのまちづくりへ発展させることを目標とします。

2. 基本方針

課題

課題1：市民の暮らしを支える拠点施設について、利便性の向上を図ることが求められます

課題2：新那加駅を中心とした、集まりやすく、安全・安心して移動しやすいまちとすることが求められます。

課題3：施設等の機能を最大限に発揮するため、市民のバリアフリーに関する意識を高めていくことが求められます。

(1) 拠点施設の重点的・一体的なバリアフリー化を進める

施設内に1つでもバリアがあれば移動できなくなってしまう人にとって、その施設は利用しづらいものとなってしまいます。このため、市民の利用頻度が高い拠点施設が集積するエリアを重点整備地区に設定し、重点的・一体的にバリアフリー化を推進することで、利便性の向上を図り、効果的なバリアフリー化を進めていきます。

(2) あらゆる人々が集まりやすく、歩いて移動しやすいまちにする

多くの方が利用する鉄道駅のバリアフリー化を図るとともに、その鉄道駅から各拠点施設を結ぶ生活関連経路まで、安全に安心して歩ける道をつくっていきます。

また、高齢者や障がい者をはじめ、妊産婦やけが人、乳幼児連れや大きな荷物を持った人など、あらゆる人が集まり、沿道の商店街で買い物をしたり、そして語りもできるなど、移動しやすく生活を楽しむことができるよう、ユニバーサルデザインの考え方や身体の機能上の制約に応じて選択が可能になるよう配慮します。

(3) 心のバリアフリーを促進する

相互のコミュニケーションを高める「心のバリアフリー」を促進させ、ハード面とソフト面の施策が相互に補完しあうようソフト施策を充実させます。

また、計画・設計段階での高齢者や障がい者等との意見交換の実施など、市民参加を通じて、市民間のバリアフリー意識の醸成等も図り、さらに持続して整備を図っていくスパイラルアップ（持続的に発展する）する協働のまちづくりを推進します。